

令和5年度 県立土浦特別支援学校 自己評価表

目指す学校像	◆児童生徒が生き生きと楽しく学びあえる学校 ◆児童生徒、保護者、教職員が自信と誇りをもてる学校	◆健康で安全・安心に生活できるきれいで整った学校 ◆保護者や地域に信頼され共に歩む学校		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の自立活動シートを作成し、障害の状態、障害による学習上、生活上の困難さ等を把握して、個に応じた教材や支援を工夫した授業を展開することで、児童生徒の達成感や意欲を引き出すことができた。 情報視聴覚係を中心に学習保障として動画配信や教材作成等の研修を行い、学習を提供することができた。また、タブレット端末の活用研修も行き、教材開発や授業づくりに努めることができた。 新システム導入により保護者、職員間での情報共有手段を拡充することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科指導において、障害の重度・重複・多様化に対応した授業体制や支援指導を提供する授業づくりを行う必要がある。 ICT教育推進（GIGAスクール構想）のための職員研修をし、より効果的な実践と活用を更に進める必要がある。 		<p>1 一人一人の教育的ニーズに応じた魅力ある授業づくり</p>	<p>①適切な実態把握に基づく、主体的・対話的で深い学びのある授業作り ②外部専門家の有効活用による障害の重度重複化、多様性への対応と専門性の向上 ③ICT教育の推進と職員研修の充実 ④「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」による保護者との共通理解及び教育活動の充実</p>	B
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 進路指導部を中心に、卒業後の視点を踏まえた小学部・中学部・高等部の系統性を考えた土浦キャリアプランを作成することができた。 キャリア発達の視点での学習活動を計画し、主体的な学びや自己選択・自己決定を促す支援指導の行うことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 土浦キャリアプランの活用し、系統的なキャリア教育となっているかを検証し、改善していく。また、改善内容は、職員間で共通理解をする必要がある。 		<p>2 自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進</p>	<p>⑤「土浦キャリアプラン」を活用したキャリア教育の推進 ⑥アフターコロナにおける体験的学習の工夫及び人や社会とつながる授業の充実 ⑦思いやりや豊かな心の育成を図る学級経営と児童生徒会活動の充実 ⑧生涯スポーツや文化・芸術活動への取り組み</p>	A
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> シェイクアウト訓練を月1回行うことで、児童生徒・職員共に初期避難をスムーズに行うことができるようになってきている。 専門医等による診断のもと、保護者と関係職員による共通理解を図り、摂食機能に応じた食形態の提供や食物アレルギーについて個に応じた対応を実施した。 コロナウイルス感染症予防対策について、学校管理医、県教育委員会と相談の上からの助言をもらいながら、適宜対応することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の自分の身を守る行動の定着に向けた訓練の継続が必要である。 食の安全確保に向けた食物アレルギー、摂食指導に関する情報の共有を図る。 感染症予防対策として児童生徒の実態に応じた対策をとれるよう支援、指導していく必要がある。 ヒヤリハット事例を収集して情報を共有し、教職員の危機管理意識の向上を進めることで、未然防止に努める。 		<p>3 安全・安心な学校づくりとリスクマネジメントの強化</p>	<p>⑨感染症対策、防災安全教育、健康教育の推進と安全な登下校の体制整備 ⑩専門家や保護者と連携した安全安心な給食と食育の推進 ⑪いじめや体罰のない学校づくりと人権尊重の推進 ⑫諸問題の未然防止策の徹底（チェック体制の強化、事例分析や情報共有及び各種マニュアルの改善等）</p>	B

<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症流行の中、交流形態を間接的に行ったり、リモートで行ったり、実施内容を検討、工夫しながら実施することができた。 ・地域の関係機関と積極的に連携を図り、幼稚園・保育園、小・中・高等学校の要請に応じた教員研修や教育相談を出向き相談・研修とHPにて研修講座の配信をすることで、各校が主体的に特別支援教育の推進を図れるようになってきている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校間、学校と地域とのつながり、互いの学び合いを大切に交流活動の実施に向けた交流形態等の検討が必要である。 ・センター的機能を高めるため、研修の充実による教員の専門性向上を図る。 ・校内支援体制の充実に向けて、関係機関と連携を図ったケースの情報共有を進める必要がある。 	<p>4 地域に開かれた教育活動と専門性を生かしたセンター的機能の充実</p>	<p>⑬交流活動の充実及び地域人材等の活用方法の工夫 ⑭教育活動等の情報発信（保護者、地域、幼保小中高等） ⑮地域に対するセンター的機能の向上及び特別支援教育体制の強化 ⑯専門家や関係機関との連携を密にした校内支援体制の充実</p>	<p>A</p>
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修では、職員間で研修内容を提案・実施した。 ・ホームページの更新に努め、教育活動等の情報発信を行っている。 ・職員間の連絡は、情報ネットワークの活用（電子会議室、アンケート機能）で、連絡事項の周知を行った。 ・定時退勤日を設けて、適正な勤務時間を実施した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・服務規律の確保とコンプライアンス遵守意識の更なる向上に向けた研修を継続的に取り組む必要がある。 ・学校ホームページを活用し学校での教育活動や各種お知らせ等、保護者向け情報を発信していく。 ・業務改善では、定時退勤日を設けることで、見通しをもった業務遂行の意識付けを図っていく必要がある。 	<p>5 信頼される学校づくりと働き方改革</p>	<p>⑰服務規律やコンプライアンス意識の向上を目指す研修の充実 ⑱明るくきれいで、風通しの良い学校を目指す取組 ⑲PTA活動の効率化と充実及び保護者との連携方法の工夫 ⑳業務改善・効率化と勤務時間の適正管理</p>	<p>A</p>

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連	評価	課題及び次年度（学期）への改善策
<p>地域相談センター</p>	<p>相談支援係</p> <p>(1)各市教育委員会や他機関との連携を一層図りながら、地域の幼稚園・保育園、小・中・高等学校等との信頼関係を深めつつ、教育体制の強化に寄与しつつ個に応じた指導支援の充実に努める。</p> <p>(2)校内支援体制の向上を図るため、早期の対応を重視し、児童生徒一人一人に応じた指導・支援向上のための積極的役割遂行に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各機関・各校の支援要請に対して、教育体制の強化も意識した課題解決策を模索する。 ・特別支援教育に関する研修会では、対象者のニーズを的確に把握するとともに、個に応じた指導の視点が教育体制として充実するよう具体的な情報の提供に努める。 ・支援実施については緊急性の有無を判断し、早期に対応する。 ・相談実施後も要請校のフォローアップを行う。 ・ケースに応じて、専門家、他機関と連携した支援を検討する。 ・ホームページ等を活用し児童生徒支援に有効な知識・技術について情報発信を進める。 ・電話相談やオンライン等、対面以外の手段による相談支援も行い、効率化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援フォルダを活用し、支援を要する児童生徒の経過を記録しつつ、持続的な情報の共有を図る。 ・必要なケースに関して、小まめな情報交換やケース会議を効率的に実施し、関係職員間の共通理解を図り、より効果的な支援方法について検討を重ねる。 ・必要があるケースに関しては、外部機関から助言をもらい、指導・支援の充実を図り、職員間で共有することで組織としての専門性の向上に努める。 ・障害特性や発達検査等についての研修会を企画し、関係職員の専門性の維持・向上を図る。 ・児童生徒の支援に有効と思われる知識・技術や自立活動の指導について積極的に情報発信する。 	<p>1-② 4-⑮</p> <p>4-⑯</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援対象の児童生徒、担任への助言は的を射た内容を提供できた。各校の教育体制の強化については課題がある。次年度は特別支援学校コーディネーターと管内の小中学校コーディネーターと連携する取り組みが始まる予定なので、その場を活用して特別支援教育体制に関与していく。 ・校内支援フォルダに保存するデータの周知、整理が必要である。今年度は、外部機関と連携した支援を行うケースが多くあり、相談支援専門員からの専門的な助言をもらうこともできた。児童生徒に有効と思われる知識・技術、自立活動の指導についての発信は今後の課題である。早期に支援が必要な児童生徒には、福祉サービス担当者との連携を投げかけ、本校児童生徒の生活面・学習面での質の向上を図っていく。

交流・共同学習係	(1)児童生徒の経験を広め、社会性を養う機会として学校間交流を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手校担当者との打ち合わせを綿密に行い、ICT機器の活用や作品交流などの間接交流を積極的に実施することで、安全に配慮し、工夫された交流活動を企画運営するように努める。 ・特別支援学校や児童の障害に関する理解啓発を行う機会として必要に応じて出前授業を実施する。 ・ホームページなどを活用した情報発信を積極的に進める。 	2-⑥ 4-⑬	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実施学年全て出前授業を行った。理解啓発の機会として今後も積極的に実施していけるとよい。 ・相手校の窓口がコーディネーターの先生だったため、学年の担当者がいるとよかった。
	(2)特別支援学校や障害のある児童生徒に対する地域社会の人々の理解と認識を深めるため、地域交流の機会を積極的に設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックや学年に地域交流の担当者をおき、各担当者を中心とした計画を進める。 ・地域の団体等と綿密な打ち合わせを行い、ICT機器を活用しながら安全に配慮し、各学年に適した交流活動を計画し実践できるようにする。 ・ホームページでの情報発信や打ち合わせの持ち方を工夫することで、特別支援学校や児童の障害に関する理解啓発を進める。 	2-⑥ 4-⑬	B	<ul style="list-style-type: none"> ・係を中心に計画・立案を進めているが、小は各学年に担当者がいるため、連絡調整もスムーズだった。中も問題なかった。 ・校内掲示やホームページを通して、交流の校内外に対して交流の様子を周知することができた。来年度は、居住地校交流についての活動の様子をHPなどで発信していきたい。
教育計画係	(1)キャリア推進部や進路指導部等と連携し、教育課程の内容を見直しを進める。	・キャリア研修部や進路指導部等と連携しながら「土浦キャリアプラン」を活用した教育内容や教育課程、年間指導計画の検討と校内研修をする。	1-① 2-⑤	B	・各部の指導内容を土浦キャリアプランのどの項目か、授業シートに記入して確認できた。教育課程検討委員会や研究推進委員会で教育課程の見直しを行った。3観点を踏まえた教育目標等を学校全体で研修することが課題である。
	(2)保健安全部及び生徒指導部との連携を図り、安心安全な学習環境作りを推進する。	・保健安全部及び生徒指導部との連携で、いじめや体罰のない学校づくりと人権尊重の推進、学校事故の未然防止対策を検討・周知を図る。	9-⑨ 9-⑩ 9-⑫	B	・ヒヤリハットの事例等を学部毎に共通理解し、学校事故の未然防止を行った。学校生活アンケートや人権尊重の授業（高等部）を行い、安全安心な学習環境作りを行った。これらの取り組みを保護者に情報提供していくことが今後の課題である。
教務部 教科書・図書係	(1)令和6年度使用教科用図書の適切な採択と令和5年度教科用図書使用の啓発を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・使用教科用図書選定時に、各学年の意見を反映することで、より児童生徒の実態に応じた選定を行う。 ・教科書選定時に比較するための教科用図書を購入し、選定に活用する。 ・教科用図書に関する基本的な知識を係が理解するためのマニュアルを作成する。 ・教科用図書の使用を呼びかけたり、活用情報を共有するなどして、教科書使用への意識を高められるようにする。 	1-①	B	・小学校検定済教科書の選定年度にあたり、複数の出版社の検定済教科書を比較し選定を行うことができた。学部会で教科用図書の使用を呼びかけたり、教科書展示を行ったりすることで、教科書使用への意識を高めてもらえるように努めた。指導書、教師用教科書が不足しているため、少しずつ充実させていく必要がある。
	(2)図書室の有効的活用と啓発、図書室の環境整備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の整理及び所蔵本のデータ整理を行う。 ・図書委員会と連携をしながら、図書室の活用や読書活動を推進する。 ・図書室の環境整備、改装を進める。（照明の確保、カーテンの新調等を含める） 	2-⑧ 5-⑧	B	・係以外の職員にも協力いただき、所蔵本や図書室の整理を行い、利用しやすい図書室になるよう、環境改善をすることができた。全校でよむよらりーを行い、読書活動を推進することができた。図書委員会の活動日が少なく連携を取る事が難しいが、生徒を主体とした活動を増やしていきたい。
庶務係	(1)諸帳簿(出席簿、会計簿、指導要録)及びその手引きや公文書ファイル等の準備、作成、整理に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・各帳簿の準備等については、係で共通理解を図り、役割分担をして迅速に行い、各担任に確実に配付する。また、保存期間が過ぎた帳簿の処分を行い、年度順に分かりやすく整理をする。 ・出席簿、会計簿の作成時期に合わせて、締め切りに間に合うように記入の具体例を提示するなどして周知していく。 ・質問が多くあった案件等については、手引きに加筆・修正する。 	3-⑫ 5-⑱	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各帳簿の準備・整理については夏季休業等を利用して確실히行えた。 ・質問があった点や改善点は、係内で話したり管理職に相談するなどして、チャットや学部朝会などで全体に周知した。 ・諸帳簿チェックの際、訂正が必要なことが多いので、学部・学年内でも周知できると良い。

		(2)教室常備品の定期的な確認と、補充する必要性のある備品の購入を行い、必要に応じて修理、交換等をして教室環境整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・每学期末に担任に備品点表を配付し、教室の備品を点検してもらうようにする。 ・要望のあったものに関して、確認を行い、修理、交換等を行う。 ・電子黒板やモニターの使用が増えている状況に合わせて、黒板消しやクリーナーの数を適切に調整していく。 	3-⑫ 5-⑱	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末に備品点検表を配布し、修理や交換の必要な物についてすぐに対応できた。 ・黒板消しクリーナーについては学年で1～2台にしていくなど、共用を進めていく必要がある。
ICT活用推進部	情報・視聴覚管理係	(1)ICT活用による業務効率化について、積極的な情報提供や提案をし、働き方改革を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務におけるICT活用に関する情報をコミュニケーションツールを通して発信する。 ・各学部・校務分掌と連携しながら、校務における書式や情報システムの改善を図る。 	5-⑳	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsを活用し、定期的に教職員向けにICT活用に関するトピックスを発信することで、学習指導や校務に生かしていくことができた。また、キャリア研修部と連携し、学習指導や教材活用のサイトによる情報発信体制も構築することができた。今後もICT活用による校務効率化は必須となることから、適切な体制・システムの見直し・構築をしていくことができるとよい。
		(2)ホームページやメール配信等で計画的かつ円滑な情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学部・学年・校務分掌と連携し、年間を通じた計画に基づくホームページの更新を行う。 ・円滑な情報発信を行うことができるようにホームページ記事やメール配信内容作成のための校内書式を整備を行う。 	4-⑭	A	
ICT教育推進係	ICT教育推進係	(1)児童生徒の主体的なICT活用を促すための研修を計画・実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和の日本型学校教育における個別最適な学び及び協動的な学びをテーマとし、一人一台端末を活用した指導についての研修を行う。 ・オンデマンドやワークショップなど、ニーズや効率を踏まえて研修方法について検討する。 	1-③	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や領域における学習の目的、児童生徒の実態、課題に応じた活用の研修を行った。学習や意思表示、スケジューリングなどのアプリケーション活用に加え、フィンガーボードやパワーポイントなどを使い個々の課題に応じた教材を作成・改良しながら実践が行えた。より身近なツールとして、生活や学習の中でICT機器の活用を推進できるよう職員の研修が必要である。
		(2)ICT環境の充実を図り、児童生徒の一人一台端末活用を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した個別最適な学び及び協動的な学びを実現ためのタブレット端末のコンテンツの精選や設定・管理を行う。 ・端末や周辺機器の整理を行い、管理場所や使用方法を周知することで、機器の活用しやすい環境を整える。 	1-③	A	
保健指導係		(1)健康で安心・安全な学校生活を送るために事故防止や状況に応じた感染症予防に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナの状況を把握し、相談の上、臨機応変に対応する。 ・ヒヤリハットや事故報告事例を共通理解できるよう、学部会等で情報の共有化を図る。 ・救急蘇生法や緊急時シミュレーションの研修を通して、事故防止や緊急時の対応力の向上に努める。 	3-⑨ 3-⑫		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ以外の感染症も定期的に流行している。予防の具体的な対策を継続的に情報発信していきたい。ヒヤリハットの報告の呼びかけを月を決めて継続して行っていく。

食育安全係	(1)食育指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・食育月間、給食週間についてアナウンスをしたり、食育について食育だよりを作成及びホームページに掲載したりして、給食の時間、学級活動、各教科や総合的な学習の時間などの学校教育活動全体を通して、児童生徒への食育指導の充実を図る。 ・月に1回、おすすめの献立をホームページで紹介し、給食に対する理解啓発を図る。 ・毎月の給食目標を高等部給食委員会と連携して放送したりして、周知していく。 	3-⑨ 3-⑩	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・食育だよりとおすすめ献立をホームページに掲載した。また、児童生徒が正しく配膳できるようひらがな献立を各クラスに配付した。お昼の放送で給食委員が給食目標や食育についてアナウンスをすることで児童生徒の食育に関する意識を高めることができた。 ・コロナが終わり、生徒が給食の準備や配膳をするようになった。そのためのアナウンスは行ってきた。食堂の使い方に関しては今後、検討が必要である。
	(2)衛生指導や適切な配膳指導の徹底に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・給食当番の衛生チェックの実施を呼びかけ、衛生への意識を高める。 ・衛生や配膳などについて、職員への注意喚起を定期的に行う。 ・アフターコロナにおける配膳について順次児童、生徒による配膳を促し、自分で考えて給食準備や配膳ができるようにする。 	2-⑥ 3-⑨ 3-⑩ 3-⑫	A		
防災安全環境係	(1)非常災害時に際し、様々な状況におかれても安全に避難できるよう、児童生徒の初期対応能力や教職員の適切な判断・行動力の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な集団(学年・学部・グループ等)や状況を想定した避難訓練及び引き渡し訓練等の計画・実施をする。 ・緊急地震速報発報端末を活用し、非常災害を想定した初期行動訓練やシェイクアウト訓練を重ね、児童生徒、教職員の初期対応、判断、行動の強化をする。 	3-⑨	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定した訓練を実施した。今年度から初期行動を改めたことで、より早く屋外へ避難できた。今後も、様々な場面を想定した訓練を計画し、いかなる場合にも安全に避難できる仕組みを整える必要がある。 ・非常食は計画的に購入・消費をした。サバイバルパンは訓練と同日に配り、防災に対する意識付けを高めるきっかけとなった。台風・大雨時の動きなどの非常時にも備え、職員や関係機関と運営のあり方について検討し、共通理解を図っていく必要がある。
	(2)災害時用非常食の食品の消費、購入計画を立てるとともに、台風、大雨時のタイムラインと福祉避難所の運営計画の見直し、改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・消費期限の近づいた非常食の消費の時期、方法を事前に検討し、災害時に備えて計画的な購入を進める。 ・「台風、大雨時のタイムライン」と「福祉避難所運営計画」を災害時に即時に実施、運営できるように、職員、関係機関との役割分担等の詳細を検討する。 	3-⑨ 3-⑫	B		
	(3)学習環境の安全確認、整備を行い、校舎内外の環境・美化活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を行い、校内の安全を確認するとともに、適宜清掃も行き、環境・美化活動に取り組む。 ・職員作業を定期的に行い、教室や廊下等の環境整備に取り組む。 ・委員会活動と連携し、児童生徒による美化活動の充実を進める。 	2-⑦ 5-⑱	C		<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検は月1のペースで実施した。職員作業(美化活動)については、具体的な計画を提示しておらず実施できなかった。次年度からは、全職員で効率良く実施できるよう計画する必要がある。
	(4)清掃用具の在庫の正確な数の把握する。また清掃用具の点検・整備を定期的に行い、補充する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室を含む各教室の清掃用具の数や使用状況を点検し、必要に応じて補充を行う。 	5-⑱	B		<ul style="list-style-type: none"> ・学期末に清掃用具を点検し、数や使用状況を確認した。新しいものへの交換や補充についての周知も行い、常に清潔に使える状態を保つことができるよう呼びかけを行う必要がある。
衛生管理者	(1)教職員が安心、安全に勤務できる環境づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の衛生委員会では、各学部より勤務に関する案件などを提示してもらい迅速に対応できるように管理職に相談しながら取り組むようにする。 ・全職員のストレスチェックに向けての準備を確実にいき、各自がストレス度を意識できるようにする。 ・職員の健康や人間関係からのストレス軽減につながるような情報の提供を行う。 	3-⑨ 5-⑳	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会にて各学部や保健室より気になる点などの情報を得て検討できた。ストレスチェックについては、該当職員へ確実に配付し実施できた。ストレス軽減や健康に関する資料をTeamsで伝えることもできた。メンタルヘルス講習会は好評だったが参加者が少なかったので今後呼びかけが必要である。

基本研修係	(1)新規採用教員研修、中堅教諭等(前期・後期)資質向上研修、ベテラン研修、講師研修が円滑に進められるよう、関係職員と連携を図り、校内研修体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修対象者、関係職員に、各年次研修の内容及び目的、課題、レポートや研究授業について周知し、1年間安心して研修を受けられるようにする。 ・研修に向けた準備を関係職員に依頼し、連絡を密にすることで研修をスムーズに行えるようにする。 ・事前に行ったアンケート結果も参考にしながら、講師の資質能力の向上を図る研修を計画し、実施する。 	1-① 1-② 1-③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用教員研修、中堅研修の研修内容を把握し、研究授業や校内研修を滞りなく行うことができた。講師研修については、研修したい内容のアンケートをもとに行うことができた。また、参加者の負担にならないよう動画研修も取り入れることができた。今後も、資質向上に向けて効率的に研修を行っていく必要がある。
	(2)新任職員に対して必要に応じたオリエンテーションを行い、新しい職場での職務遂行の一助とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに社会人及び教職員として必要と思われる服務、防災安全、ICT機器（情報関係）についての説明会を実施する。 	5-⑰ 5-⑱	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新任教員と講師の先生方を対象に服務や防災安全、ICT（情報関係）についての研修を実施することができた。今後も必要な研修内容を把握し継続して行っていく必要がある。
研究推進係	(1)授業における支援・指導について、ライフキャリアとワークキャリアの視点をふまえながら、授業改善できるよう一人一人の教員のスキルの向上を図る。また、深い学びにつながるような授業づくり研修を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・土浦キャリア教育プランの活用に向けて、キャリア教育に関する研修（外部講師による講義、進路指導部・学部主事と連携して系統性の検討）を取り入れる。 ・各学部にて研修を進め、児童生徒の思いや願いに着目し、キャリア発達を促す支援方法について探る研修を設定する。方法については、土浦キャリア教育プランの求める力に着目した授業改善や教育課程の改善、個別の教育支援計画の目標設定でのツールにする、などを提案していく。 ・校内研修において外部講師の指導助言を受けることで、すべての教員が一定程度の支援スキルを身につけることができるようにする。 	1-① 1-② 2-⑤	C	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による講演等を取り入れてキャリア教育の基本的な理解を深めることができた。児童生徒のキャリア発達を促すためにも、今後も年度初めに土浦キャリアプランを確認する時間を設ける必要がある。 ・各学部において授業シートの作成やおもいっぱいシート、ゆめシートの作成を通して、児童生徒の実態把握や授業改善につなげることができた。外部講師の助言から、今後の学部におけるキャリア教育について主事・学年と連携して方向性を決めていく必要がある。また、授業改善については、学習指導要領を理解し、学校全体に共通した研修計画を提示していく必要がある。
	(2)特教研の本校の研修会、各校の研究会への参加が円滑に遂行できるよう研修体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・本校主催の研修会において、教員にとって有意義な研修になるよう外部講師と連絡調整を密に行い、本校の研修テーマに沿った内容での講演を依頼する。 ・他校主催の研修会の全体周知を適切に行い、各校担当者との連絡を密にする。 	1-① 1-②	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校主催の研修会では渡邊昭宏先生に「特別支援教育におけるライフキャリア教育」を講演していただいた。卒業後の進路につながる、学校生活で身に付けておきたい力について再確認することができた。 ・Teamsを用いて研修会の周知、他校とのやりとりを円滑に行うことができた。
	(3)身近な人権問題について取り上げ、関心や理解を深められるような研修会を催す。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の研修会では、子どもや性的マイノリティーの方への人権侵害などの人権問題について外部講師に講義をしていただいたり、ビデオ視聴研修を設けたりして、教員の人権意識を高められるようにする。 	1-② 3-⑪ 5-⑰	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いて人権研修会を開催した。学校とは違う視点での講演を聞くことができ、改めて子どもの人権について意識を高めることができた。Formsのアンケート機能を用いて円滑に感想を集約できた。これらの取り組みを保護者にも周知していくことと学校全体で行える人権意識を高める活動を取り入れることが課題である。

自立活動係	(1)セラピスト相談の円滑な計画・運営を行い、児童生徒の適切な実態把握や支援へとつなげられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な計画立案、実施のため、年間の行事等を考慮しながら各セラピスト、関係職員と情報を共有する。 ・相談票をカテゴリーごとに整理し、相談者や相談を検討する職員が、相談内容を参照できるように周知する。 	<p>1-① 1-② 4-⑬</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・係で業務を分担し、相談者、セラピストと連絡を密にとり、円滑に運営できた。 ・相談票のカテゴリー分けについては、閲覧しやすい形や周知の仕方について検討し、活用しやすいようにしていきたい。 ・来年度に向けての時間数等について、管理職と連絡を密にし、相談事業をより充実させられるよう計画していきたい。
	(2)自立活動シートの作成、活用の促進を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や個別の指導計画、年計などへの効果的な活用を促進するため、関係する係と連携し、作成や見直しを呼びかける。 ・年度末を目安に関係する係と連携し、アンケートを実施する。意見を反映させて書式等の改善に努める。 	<p>1-① 1-④</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に作成、活用について周知した。来年度の作成や活用について、研究推進係や学習指導係と連携し、計画していきたい。
学習指導係	(1)校務支援システム（「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」）について運用体制を整え、活用が円滑に行われるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・作成手順やスケジュール、作成方法について、その都度文書を作成して配付したり、チャットルームで知らせたりすることで周知する。 ・次年度に向けて、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成する手順や作成内容等が分かるマニュアルを作成する。 	<p>1-① 1-④ 2-⑤</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システム初年度であり、マニュアルのない中でスタートであった。その都度必要な情報をTeamsなどで周知することに努めた。また、いつでも必要な情報を探せるように、学習指導係のサイトを開設した。1月上旬の段階で閲覧数は380であることから活用されていることが分かり、継続していくことの必要性を感じた。
	(2)教育的支援を深めるためのツールとして基本調査票、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の見直し及び改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・様式、作成の仕方などについて職員にアンケートを実施する。校務支援システム初年度としての意見をまとめ、改善策を検討・提示することで、運用内容の改定を行う。 	<p>1-④ 2-⑤</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個別等の作成期間後に、学部ごとに聞き取りを行った。職員の意見を吸い上げながら、必要に応じて情報を発信したり書き方などの改善を行ったりすることができた。今年度の反省をもとに次年度への準備をしているので、しっかりと引き継いでいきたい。
	(3)年間指導計画について、学部内での系統性を精査する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践について他学年・他グループ間での見学または報告を行い、学部内での授業及び年間指導計画の系統性について検討を重ね、学習の一貫性や系統性を精査する。 	<p>1-① 2-⑤</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画訪問前に学部ごとに見直しを行い、学習の一貫性や系統性について精査することができた。今後の課題としては、理科や社会などの教科学習について、学部間の系統性を精査することが挙げられる。
教材活用	(1)教材教具のとりまとめ(備品台帳等の整理及び教材教具の紹介・展示)	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科領域の係と連携し、定期的な教材・教具の整理や備品の管理を行い、活用しやすい環境を整える。教育活動に活かすことができるようにする。 ・授業で使用している教材・教具について紹介する機会を設ける。 	<p>1-③ 5-⑱ 5-⑳</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教室を整理し、各教科領域係に教材をまとめるよう依頼したことで、教材の所在がまとまってきた。一部の教材に関しては、大きさ等の問題から、異なる場所へ保管している場合もあるため、教材の所在を全職員が認識することで、さらに教育活動に生かすことができると考える。 ・授業で使用している教材を各学部で1つ以上紹介をした。教材の所在も紹介することで、使用する学年も見られ、教育活動に生かすことができた。

	係	(2)有効活用教材のデータベース化	<ul style="list-style-type: none"> ・教科領域のデジタル担当者と連携し、有効活用教材のデータベース化を図る。 ・教材にアクセスしやすいように、ICT活用推進係と連携しながら、サイトを作成したり、OneDriveの検索機能を活用したりする。 	1-① 5-⑳	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教材フォルダ内のデータのタイトルを統一したり、教科、単元等に整理することで、より活用しやすくなることができた。また、ICT活用推進係と連携し、教材活用のサイトを作成することで、教員用のタブレットから簡単に教材リストへアクセスできるようになった。今後もサイトを修正したり、周知することで職員が活用しやすい状態を更新していくことが必要である。
	生徒指導係	(1)保護者、担任、関係諸機関と連携を密にし、児童生徒の変化等の把握に努める。また、いじめの防止等の対策を学校全体で取り組み、児童生徒が安心して学校生活を送れるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学校生活や家庭での様子等の変化を学部内で情報の共有化と連携を図り、問題行動の未然防止や改善に努める。 ・本校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめ調査、いじめ相談体制、いじめ防止対策会議の設置、教職員研修等を行うことで、いじめの未然防止や早期発見、対応に努める。 	3-① 3-⑫	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と担任、スクールバス、デイサービスなどの関係者と日々の児童生徒の変化について共通理解をし、問題行動の未然防止や改善に努めることができた。いじめの防止については、研修を通し、いじめについて校内で共通理解を図るとともに、学校生活アンケートの見直し、毎月の定例会議の実施などを行った。今後は、いじめ事案のフローチャートの作成や相談体制について職員に分かりやすく周知していく必要がある。 ・年度初めの検索訓練、警察との連携をした不審者対応の訓練など係だけでなく学校全体で取り組み、改善点を修正できた。
	通学指導係	(1)三者（保護者、県委託運行バス会社、担任）の連携を密にしながスクールバスの安全運行に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス添乗指導を必要に応じて行うようにし、問題点や課題を整理する。 ・スクールバス連絡協議会だけでなく日々の情報交換を通して、スクールバス運行における問題点や課題を明確にし、保護者や担任と情報を共有し対応することで、安全な運行に努める。 ・緊急時のスクールバスの運行体制について、整理し活用できるようにする。 	3-⑨ 4-⑯	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のバス内における課題を、係が中心となって三者（保護者、県委託運行バス会社、担任）と連携して情報を共有し、早期発見と早期解決に向けた取り組みを行うことができた。今後も些細なことであってもバス会社と係で連携を密にし安全な運行に努めていく。
	生徒指	(2)自力通学や自主通学の生徒がより安全に通学することができるように努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自主自力通学の練習にあたっては、担任・保護者と協力して、交通ルールに従った通学や緊急時の対応ができるよう指導する。 ・不審者情報を担任と共有し、安全な通学ができるよう注意を喚起する。 ・自力通学・自主通学をするあたりの練習や手続きについて、分かりやすいものに改善する。 	3-⑨ 3-⑫ 4-⑭	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自主・自力通学の生徒においては生徒指導主事と連携し、不審者や事故等の情報を共有、生徒への注意喚起を行いながら安全な通学ができるための指導を行うことができた。 ・自主・自力通学の手続きにおいては、これまでの実績を考慮して内容を簡略化できた。
	特別活動係	(1)児童生徒が主役となって児童生徒会活動を行えるように、係内や学部内での役割を明確にし、共通理解を図りながら円滑に行えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会やスマイル朝会、委員会、児童生徒会役員選挙、さわやかマナーアップ運動、姉妹校交流、各種学校行事などの計画・運営と個に応じた参加の仕方や指導方法の工夫や改善に努める。 ・小中高との連携を図り、教科領域の特別活動係と連携し、教師間相互の共通理解や情報交換に取り組みながら支援にあたる。 	2-⑦ 4-⑬	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スマイル朝会をオンラインで、代表委員会は全学部で集まり実施した。スマイル朝会の役割分担やぬりえコンテスト、マナーアップ運動など児童生徒会活動の内容を分担をし、会長を中心として児童生徒が主体的に活動でき、様々なことに挑戦することで自信につなげることができた。
	生徒指	(2)児童生徒がさわやかマナーアップ運動やスマイル朝会を通して、「自分から進んであいさつ」をすることの定着を図る。また、場面に応じて考えたり行動したりできるように努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会を中心に代表委員会やスマイル朝会を通して児童生徒間でつながり、上下級生同士や各部間で連携していく。 ・児童生徒の実態や活動内容について共通理解を図り、さわやかマナーアップ運動や校内あいさつ運動を日常から継続して取り組めるように支援する。 	2-⑦ 4-⑬	A	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーアップ運動「どよーんとやまぶーを繋ごう」の活動では、児童生徒の意識を高め、積極的にあいさつすることができるようになった。次年度は、分掌係や教科領域の係が連携して業務を進めていけるとよい。

導 部	ス ポ ー ツ ・ 文 化 活 動 推 進 係	(1)運動部において、生徒の実態に応じた活動を行い、基礎体力の向上や自主性の育成に努め、生涯スポーツに繋がるようにする。また、大会に向けて生徒が意欲的に練習に取り組めるようにする。	・運動が楽しいと思えるよう、部活動の内容を生徒の実態や興味に応じて計画し、主体的に参加できるよう支援の方法を工夫する。 ・日頃の部活動や各スポーツ大会への積極的な参加を促し、運動や集団活動の楽しさを味わえるように支援する。	2-⑧	A	B	・生徒の実態に応じ、各種大会への参加をすることができた。異学年と共に活動することで、集団意識や楽しさを実感できた。 ・来年度へ向けて、各個人が公共交通機関を活用して各種大会へ参加することができるとうい。
		(2)地域社会と連携を図り、校内のスポーツ活動の推進に努める。	・地域のスポーツクラブと連携し、アントラーズのサッカー教室やバスケット・バレーの体験授業を計画することで児童生徒の興味・関心を高め、スポーツ活動の推進を図る。	2-⑥ 2-⑧ 4-⑬	B	B	・地域のスポーツクラブと連携し、アントラーズのサッカー教室を計画、実践することで児童生徒の興味・関心を高め、スポーツ活動の推進を進めることができた。サッカーだけでなく、ポッチャなどのパラスポーツの体験ができるとよい。
		(3)文化部において、生徒が文化活動に親しみ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養を育み、自主的に活動できるよう支援する。	・文化活動が楽しいと思えるよう、絵画や書道等の創作活動、風景写真の撮影や音楽活動などの芸術活動全般を計画し、主体的に参加できるよう支援の方法を工夫する。	2-⑧	B	B	・高文連の活動を主な文化部としての活動として行った。次年度は文化部を円滑に発足できるように、準備を進めていく必要がある。
	文化活動推進係	(4)高文連の活動では、特別支援学校の芸術文化活動や学習活動を通して、特別支援教育の理解啓発に努めるようにする。また、生徒一人ひとりが啓発のために何ができるのか自ら考え、行動できるように支援する。	・茨城県高等学校総合文化祭特別支援学校部門大会に向け、中心校として、各校担当者と連絡を密にし、運営の計画・実施をする。 ・生徒実行委員が高文連の活動について、どのようなことを周囲に伝えたいのか考え、それらの内容をまとめた動画撮影や編集をし、周知できるようにするための支援をする。 ・高文連の活動を知ってもらうために、スマイル朝会や校内放送などで周知する機会を設け、校内の文化活動の推進を行う。	2-⑧	A	A	・土浦特は県南中心校になり、委員会毎に進行を行ったり、部門大会の会場の確保などを行った。本部（水戸特）との連絡は、主にメールで行った。学校紹介ビデオでは、生徒が内容を考え、撮影を行うことができた。（来年度動画は無くなる案が出ている）。美術作品の展示だけでなく、紹介の仕方を工夫できるとよい。
進 路 指 導 部	進 路 指 導 係	(1)ニーズに応じた進路選択や現場実習が実施できるよう、実態把握の適正化を図りながら、校内の支援体制の充実、地域の関係機関・福祉施設や企業との連携を通して、個々の希望や特性に合った移行支援が成せるようにする。	・「就労に向けた事前適正チェック票」を活用することで、生徒達の実態把握を客観的にを行い、課題を共有することで就労に向けた支援につなげられるようにする。 ・地域の一般事業所や福祉施設との連携を密にし、現場実習の実施に向けて協力を得られるようにする。 ・確実な進路決定のため、校内コーディネーター、各市福祉課、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、障害者職業センター、相談支援事業所等の関係機関との連携を深めながら支援を進める。 ・職員への進路指導に関する研修会を実施し、職員の進路指導に関する知識と理解を深める。	1-① 1-④	B	B	・高等部の校内・現場実習の評価に関しては、学部・学年の中で共通理解を図った上で実施できた。支援を要する生徒に関しては、校内コーディネーター等との連携を密にし、支援会議等を開き支援内容の確認を行った。 ・高等部1・2年職員に対しての進路に関する研修は、保護者向けの進路学習会前に実施できたが、小・中・高3に関しては今後の課題である。
		(2)系統性のあるキャリア教育の推進を図るとともに、児童生徒や保護者のニーズに沿った情報発信に務める。	・しんろだよりや掲示板、ホームページ等を活用し、関係機関から得られた情報、進路に関する行事の紹介や成果、卒業生保護者び卒業生からの助言、施設の紹介、進路選択に関する情勢等について発信していく。 ・各関係機関と連携しながら、生徒向け・保護者向けに進路に関する学習会や説明会を設定・実施する。またその情報を職員間で共有し、進路指導に役立てられるようにする。 ・進路指導室を生徒や保護者が積極的に活用できるよう環境整備を行うとともに、生徒や職員が積極的に進路情報を得ることができるようなコーナーを設置する。	2-⑤ 2-⑥ 4-⑭	C	B	・進路だよりの発行や保護者への情報提供がについては検討していく必要がある。 ・高等部において、進路に関する学習会は、各学年向けに計5回実施してきたが、小・中保護者に関しては、福祉事業所（施設）合同説明会のみ開催となった。 ・進路指導室の整理は行った。十分な情報発信の場となるようにすることが課題である。

		(3)関係機関と連携しながら卒業生の課題や問題への早期対応を図れるようにする。また、会員相互の親睦や交流を深めることができる同窓会を実施し、卒業生の現況把握に務める。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先となった一般事業所や福祉施設、障害者就業・生活支援センター、相談支援機関等との連携を密にし、情報交換を継続することで、協力体制を構築していく。 ・追指導を実施する。また、課題や問題が報告された卒業生については、関係機関と連携して対応する。 ・同窓会を実施し、卒業生の現状について把握したり、必要に応じて相談機関を紹介したりして、困り感を減らしていく。 	1-② 4-⑯	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業を利用しての追指導に関しては、日頃から関係機関との連絡を取り合い対応してきたので、スムーズな指導ができた。 ・同窓会に関しては、今後も2学期に実施していくことで、職員の準備期間も十分に取れる。行事の日程が被らないようにして実施日を決めていければよいと思う。 	
渉外部	事務局	(1)事務局と各係、また役員の保護者とT A全体の運営が円滑に行われるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回の分掌部会において、各係の取組み状況や課題等を確認し合う。 ・課題については、事務局を中心に渉外部全体で検討、対応する。 ・専門委員会の行事への協力をする。 	5-⑱ 5-⑲	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・対面での活動ができるようになり、配慮をしながら役員さんに連絡、活動するように努めた。役割分担をして、奉仕作業や研修の運営を進めることができたが、参加者がより増えるように、反省を生かし、開始時刻や日程などを検討していく必要がある。また、PTA活動への理解を改めて伝えていくことも必要である。
	専門委員会	(1)学年委員会、研修・環境委員会、交流委員会の各委員会の活動を保護者主体で積極的に活動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当を中心に、委員長と連携を図りながら協力していく。 ・各活動への参加者を増やすよう、HPや文書等によるPR活動をすすめる。 	4-⑭ 5-⑲	C		
小学部		(1)一人一人の発達段階に応じた主体的で対話的な深い学びから好きなことや得意なことを見つけ、学習に自分から取り組もうとする力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストを用いた客観的指標や行動観察の他、困難さの背景にある要因などを適切に理解するように努め、そうしたアセスメントの成果を「個別の指導計画」などに反映させる。 ・興味・関心を引き出し、心が躍る授業づくりの工夫を進める。 ・効果的で効率的に学習するツールとして、ICT機器の活用を推進する。 	1-① 1-③ 1-④ 2-⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握に取り組むことで、各々に合った課題や目標、手立て等を共通理解して授業づくりに生かすことができた。 ・電子黒板やタブレット端末等を使用することで、視覚的に分かりやすく子ども達が興味をもって学習に参加できるような授業づくりやを行うことができた。 ・ICTを活用した教材づくりや電子黒板等の効果的な活用について教員がさらに研修を行い、授業づくりに生かしていく必要がある。 ・自立活動では、自立活動シートを活用して内容やグループ編成、個別活動の確保等に生していくとさらによい。 	
		(2)健康的な体づくりと基本的な生活習慣や動作の習得を目指し、自分のことは自分でやろうとする態度を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・よい習慣で生活することの心地よさや、運動することの楽しさを積み重ねる支援に取り組む。 ・健康で安全・安心な生活をするために信頼関係を築くとともに、必要な環境設定や支援方法を工夫する。 ・運動と認知、運動と情緒、運動と感覚、運動と社会性の関連性を意識した授業づくりを進める。 	1-② 1-③ 2-⑤ 3-⑨ 3-⑩ 3-⑫	B	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きや清掃活動、配膳の手伝い等に継続して取り組むことでできることが増えた。 ・朝の運動(体育)で歩く・走る・ダンス等の運動を継続することで運動量の確保をし、健康的な体づくりや心の安定につながった。 ・身長と体重の健康的なバランスについて、養護教諭や家庭と連携して取り組むことができる。とよい。 	
		(3)他者への興味・関心とやりとりへの意欲を育てるとともに、いろいろな役割を通して他者からほめられ、認められる体験することで、自己肯定感や役割意識を培う。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉やサイン、カードなどの代替手段を活用して挨拶や気持ちなどを伝えあう体験的活動を工夫することで、自己選択の力や相手とやりとりをしようとする力を育てる。 ・教師が心情に寄り添いながら励ましたり、チャレンジする姿を見せたりすることで、豊かな心や苦しいことにも挑戦しようとする強い心を育てる。 ・役割を担うことが自分に対する自信や喜びとなるように、人や社会とつながる学習活動の工夫によりキャリア形成の基礎を培う。 	2-⑤ 2-⑥ 2-⑦ 4-⑬ 5-⑱	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や授業で自ら伝えたり、あいさつしたりする姿が増えた。 ・お助け隊の認められる体験の中で、役割を担う楽しさや達成感を感じるようになった。 ・学部集会で役割に取り組んで自信をつけ、他学年の友達とかかわることができた。 ・コミュニケーション力を育てる工夫を行い、友達同士のかかわり方を改善していく。 	

小学部 第1学年	(1)対話的な机上の学習と共に、体験的な学習活動を多く取り入れることで、いろいろな物事への興味・関心を広げ、自分からやってみようという気持ちを育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気づくりや、五感に働きかける教材を取り入れたり、困難さに応じた教材や指導方法を工夫したりしながら、様々な体験的な学習に取り組めるようにする。 ・個々の児童に応じて不安な部分を支援したり、励ましたり、特性に配慮した環境を整えることで、「やってみよう」という気持ちを汲み取り、意欲を高められるようにする。 ・「できた」「がんばった」とときには共に喜び、称賛することで児童が自信を持つことができたり、次の学習につなげたりできるようにする。 	1-① 1-③ 1-④ 2-⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTや具体物を使い、個に応じた学習支援や即時評価を行い、「できた」という経験を重ねた。達成感を味わうことにより、児童が自信や意欲をもって様々なことに取り組む児童が増えた。
	(2)学校生活に慣れ、日常生活における基本的な生活習慣(手洗い・排泄・食事)についてできるだけ自分で行おうと態度を育み、自分でできることを増やすとともに、体を動かす楽しさを味わう。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を図りながら、児童一人一人の体調や行動面について共通理解を図り、学校生活のリズムを整えて、安心・安全な学校生活が送れるよう配慮する。 ・様々な学習の中で、身体を動かすことを楽しみながら、基本的な身体の動かし方を身に付けるとともに、安全に生活するための約束や決まりを意識できるようにする。 ・着替え・食事・排せつなど基本的な生活習慣について家庭と連携し、共通理解のもとに具体的な目標を設定して、日々の積み重ねの中で定着を図る。 	2-⑤ 2-⑦ 2-⑧ 3-⑨ 3-⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、排泄、着替えは、毎日視覚的に分かりやすくした手順表を使い、繰り返し行うことで身に付けてきている。連絡帳や電話、面談などを通して家庭と連携を図り、情報を共有することができた。 ・睡眠リズム、規則正しい排泄など課題のある児童もおり、学校と家庭で連携して改善していることよい。
	(3)教師との信頼関係を築き、毎日の学校生活を通して情緒の安定を図りながら、学習活動の中で選択する場面を多く設定することで、自分の要求や意思を伝える手段を知り、人とかかわろうとする気持ちを育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般において、児童一人一人の行動や表情の変化を読み取り、気持ちに寄り添いながら信頼関係を築き、児童の情緒の安定を図っていく。 ・言葉や絵カード、具体物など、個々の児童に応じたコミュニケーション手段を取り入れ、自分で選択して決める場面を取り入れながら、要求や意思を受け止めてもらえたという経験を増やす。 ・学級や学年での集団活動に教師や友達と一緒に参加しながら、人とかかわる楽しさを感じることができるようになる。 	2-⑤ 2-⑦ 3-⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に依頼や報告する場面を設けることで、「やっください」「終わりました」と言えるようになった。教師が児童の気持ちを汲み取り伝え方の手本を示したり選択肢を提示することで自分の気持ちや要求を伝えることができるようになってきた児童が多い。 ・情緒面で不安定な児童もおり、家庭に加えて外部機関(病院や市など)との連携していくことが課題である。
小学部 第2学年	(1)個に応じた学習や体験的な学習を通して「わかった・できた」の経験を重ね、自分から取り組もうとする力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントリストを用いた客観的指標や行動観察の他、困難さの背景にある要因などを適切に理解するように努め、その結果を個別の指導計画に反映させつつ、一人一人に適した教材やスモールステップで行うなど指導方法の工夫改善に努める。その際、ICT機器の活用を推進していく。 ・活動ごとに学習の振り返りを行い、学習の達成度を評価して発表する場を設けることで、「できた」という充実感を感じられるようにするとともに「もっとやってみよう」という気持ちを高め、自分から学習に取り組もうとする力を育てる。 	1-① 1-② 1-③ 1-④ 2-⑤ 2-⑥ 2-⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・即時評価を取り入れることで、児童に達成感を高めることができた。チャレンジシートや振り返りシートを活用し、「できた」という気持ちを高め、次も頑張るという気持ちに繋げることができた。 ・調理実習は、指導内容に系統性をもたせ、積み重ねができるようにすることが課題。
	(2)日常生活における基本的な生活習慣(着替え・食事・排せつ)について、自分で行おうとする態度を育みながら、自分でできることを増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・着替え・食事・排せつなど基本的な生活習慣について家庭と連携し、支援の仕方について共通理解を図りながら、具体的な目標を設定して、日々の積み重ねの中で定着を図る。 ・個に応じて視覚的な支援や場の設定など環境を整えるとともに、励ましや見守りなどの支援を行いながら、自ら取り組もうとする意欲を高める。 ・なかよしタイム(自立活動)や生活(遊びの指導)、体育の学習や学校生活全般において、日常生活動作につながるような身体の動きを学習できるようにする。 ・手洗い消毒やハンカチの携帯など衛生的な生活習慣を身につけることができるように支援をするとともに、換気や消毒などを継続し、安全な学習環境を整える。 	1-① 1-② 2-⑤ 3-⑨ 3-⑩ 5-⑧	A	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や連絡帳でのやり取りの中で家庭と共通理解を図ることで、食事や排せつの面で学校と家庭と同様の支援をすることができた。生活の授業で時折手洗いや身だしなみチェックを取り入れたことで、意識を高めることができた。
	(3)教師や友達に自分の要求や意思を伝えたり、教師がその心情に寄り添いやり取りしたりすることで、個に応じたコミュニケーション力を育てるとともに、集団の中でルールを守ろうとする態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・要求や意思の表出を捉え、寄り添い応じることで伝わる喜びを感じられるようにする。また、集団活動に教師や友達と一緒に参加しながら、人とかかわる楽しさを感じることができるようになる。 ・学校生活全般において、言葉や絵カード、具体物などを用いて、個に応じたコミュニケーション手段で要求や意思を伝える場面を多く設定する。 ・守るべきルールを分かりやすく視覚的に提示し支援する。また、友達の気持ちを教師が代弁し伝えることで相手の気持ちを知り、お互いの気持ちが理解できるように努める。 ・できたことはその都度称賛することで自分からルールを守ろうとする意欲を高める。 	1-① 2-⑤ 2-⑧ 2-⑨ 5-⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・声を出せるようになったり、発音が明瞭になったことで友達や先生に要求が伝わるが多くなった。個に応じた方法でコミュニケーションの基礎を育てることができた。教師が代弁することで、子供同士のやり取りのモデルを示しながら少しずつ次も頑張ろうという気持ちに繋げることができた。

小学部 第3学年	(1)一人一人の発達段階に応じた学習活動を通して、対話的な学習や体験的活動から「わかった・できた」の経験を重ね、自分から取り組もうとする力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントやチェックリストを用いた客観的な実態把握と、日々の行動観察を大切に、児童一人一人の適切な実態把握に努め、個別の指導計画に反映させ、教師間で共通理解を図り具体的で継続的な支援を行う。 ・児童が興味・関心をもって自分から学習に取り組めるようタブレット端末等の活用や、個に応じた教材・教具の提示など指導方法を工夫していく。 ・活動ごとに学習の振り返りを行い、学習の達成度を評価したり、発表する場を設けたりすることで「できた」という充実感を感じられるようにするとともに「もっとやってみよう」という気持ちを高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1-① 1-② 1-③ 1-④ 2-⑤ 2-⑥ 2-⑧ 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントやチェックリストを活用し、個に応じた課題設定、教材作成や展開の工夫、支援方法の共通理解を行った。集団場面でも主体的かつ児童同士で関わり合うなどの児童の変容が見られた。タブレットを中心にICT機器の活用を進めた。 ・校外学習や調理実習などの学習を系統性を持たせ、精選して実施していく。教材や指導方法の情報交換や共有を行っていく。
	(2)健康的な体づくりや、基本的な生活習慣について、自分で行おうとする態度を育みながら、自分でできることを増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・着替え・食事・排せつなど基本的な生活習慣について家庭と連携し、支援の仕方について共通理解を図り、日々の積み重ねの中で定着を図る。 ・基本的な生活習慣における個々の動作や行動のレベルアップを段階的に図り、自ら取り組もうとする意欲を高める。 ・朝の運動や体育で運動する習慣を身に付け、心身ともに健康な身体づくりと体力の向上に努める。 ・手洗い消毒、マスクの着用、ハンカチの携帯など、衛生的な生活習慣を身につけることができるように養護教諭と連携して支援をするとともに、換気や消毒、検温などを徹底し、安全な学習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 1-① 1-② 2-⑤ 3-⑦ 3-⑩ 5-⑱ 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の運動で外に出で走ることで、毎日の運動量を確保し、習慣化できた。毎月、日常生活の目標を児童と相談しながら考え、毎日チェック表に記入しながら振り返ったことで、児童自身が意識してできることを増やせた。子供同士で声を掛け合ったり、自分も目標でないことも達成しようとするなど学び合う様子も見られた。ハンカチの携帯は全員できるようになった。 ・外遊びの時間の確保が難しかった。休み時間がとりにくいため、学習として設定していきたい。
	(3)教師や友達に自分の要求や意思を伝え、個に応じたコミュニケーション力を育てるとともに、ルールを守ったり、役割を果たしたりする中で、自己肯定感を培う。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉やサイン、カードなどの代替手段を活用しながら、友達や教師とかかわる学習活動を設定し、楽しさを体感できるようにする。 ・一人一人の係や役割、守るべきルールを分かりやすく伝えと同時に、達成できた部分について一人一人が実感できるように、褒め、認める経験を重ねられるように支援をし、「できた・またやってみよう」などの意欲につなげられるようにする。 ・コロナ禍における体験的学習の工夫をし、人や社会とつながる授業の充実を図ることで人への関心を深め、人とかかわる楽しさを感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1-① 2-⑤ 2-⑧ 3-⑦ 5-⑱ 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や毎日の振り返りでは、気持ちカードを活用することで場にあった気持ちを発表できるようになった児童が多くなった。係の仕事は毎日必ず行えるものを一人1つずつ担当できた。学部集会など他学年の児童や職員とのかかわりができる場を設定することで、人とかかわりを広げることができた。 ・がんばった、楽しかっただけの気持ちに偏りがちなので、気持ちの言葉をもっと増やしていけるようにしたい。また、いろいろな気持ちを感じられるような場の設定も考えていきたい。児童同士のやりとりについては実態に応じて丁寧に見取り、学習として取り上げていきたい。

小学部 第4学年	(1)一人一人の発達段階に応じた様々な学習活動を通して、対話的な学習や体験的な活動から「わかった・できた・おもしろい」の経験を重ね、自分から学習に取り組もうとする力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントやチェックリストを用いた客観的な実態把握と、日々の行動観察を大切に、児童一人一人の適切な実態把握に努め、個別の指導計画に反映させ、教師間で共通理解を図り具体的で継続的な支援を行う。 ・児童が興味・関心をもって自分から学習に取り組めるようICT機器の活用や、個に応じた教材・教具の活用などの工夫をしていく。 ・活動ごとに学習の振り返りを行い、学習の達成度を評価したり、発表する場を設けたりすることで「できた」という充実感を感じられるようにするとともに、「おもしろい」「もっとやってみよう」という気持ちを高められるようにする。 	1-① 1-③ 1-④ 2-⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の課題に応じた、課題設定、教材作成や展開の工夫、支援方法の共通理解などを行った。「わかった」「おもしろい」の経験を重ねることで、個別学習での場面に加え、集団場面でも主体的に取り組むなどの児童の変容が見られた。タブレットを中心にICT機器の活用を進めた。 ・コロナウイルス感染拡大期の影響もあり、今後必要と考えられる技能や力にかかわる経験不足が認められる。段階を踏みながら様々な事柄へ学習を広げていく必要がある。
	(2)健康的で丈夫な体をつくとともに、基本的な生活習慣を身に付け、自分から行おうとする態度を育み、できることを増やしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で安全・安心な生活をするために信頼関係を築き、着替え・食事・排せつなど基本的な生活習慣などを含めて家庭と連携し、支援の仕方について共通理解を図り、日々の積み重ねの中で定着を図る。 ・基本的な生活習慣において、個々の動作やできることを増やしていけるように段階的に支援し、自ら取組もうとする意欲を高める。 ・朝の運動や体育で運動時間や運動量を確保することで、健康で丈夫な身体をつくとともに、運動と食事を軸に健康の維持・向上に努める。 	2-⑤ 2-⑦ 2-⑧ 3-⑨ 3-⑩ 3-⑪	B	<ul style="list-style-type: none"> 成果：ハミガキや清掃活動、配膳の手伝いなど毎日の生活の中でできることが増えてきた。自分のことを自分で行おうとする態度も徐々に育ってきている。 課題：外遊びなどダイナミックに体を使う学びの時間を十分に確保できなかった。ハミガキや掃除などの流れも確立してきたため、次年度は休み時間などに体を動かせるよう時間の設定を工夫をしていく。
	(3)教師や友達とかかわりあいながら、選択の力やコミュニケーションの力を高め、ルールや役割などを意識しながら活動できるよう支援していくとともに自己肯定感を培う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師との信頼関係を築き、安心した気持ちで教師や友達とかかわる場面を設定し、自分の気持ちや考えを選択したり、言葉やサイン、カードなどの代替手段を活用したりしながらコミュニケーションの力を育み、伝わったうれしさや楽しさを体感できるようにする。 ・一人一人の係や役割、守るべきルールを分かりやすく伝えと同時に、達成できた部分について「できた・またやってみよう」など次への意欲や自己肯定感の向上につなげられるよう、振り返りや評価を積み重ねていく。 ・校外学習や交流等を含めた様々な学習を通し、社会とつながる学習を進め、キャリア形成の基礎を培う。 	2-⑤ 2-⑥ 2-⑦ 3-⑪ 4-⑬	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や授業で積極的に発言をしたり、自分から挨拶をする姿が増えてきた。学年全体で集まったの活動が増え、友達や集団を意識した行動や係活動を積極的にやりたいという意欲が見られる児童も出てきた。高学年として小学部全体のリーダーとなれるよう気持ちや態度を育てていくことが課題である。
小学部 第5学年	(1)一人一人の発達段階に応じた様々な学習活動を通して、好きなことや得意なことを見つけ、自分から学習に取り組もうとする力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントなどの客観的な実態把握や日々の行動観察を大切に、児童一人一人の適切な実態把握に努め、支援に反映させる。 ・児童が、わくわく・どきどきするような気持ちを引き出すとともに、興味・関心をもって、自分から「やってみよう」と思えるような授業作りや教材・教具の提示、指導方法を工夫していく。 ・活動ごとに学習の振り返りを行い、学習の達成度を評価したり、発表する場を設けたりすることで「できた」という充実感を感じられるようにするとともに、「もっとやってみよう」という気持ちを高められるようにする。 	1-① 1-③ 1-④ 2-⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ・発表する場面や、やってみようと思ったことをできる環境を整えたことで、個々が活躍し「できた」と実感できる活動を行うことができた。わくわくする内容や他の児童がチャレンジする様子を見て、主体的な姿や自らやってみようとする態度が見られた。 ・個々の実態に合わせた振り返りの仕方や発表の場をさらに増やすことが課題である。
	(2)健康的で丈夫な身体をつくとともに、日常生活における基本的な生活習慣を身に付け、自分でできることを増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動時間や運動量を確保し、運動する楽しさを積み重ねながら、健康で丈夫な身体をつくり、健康面の維持向上を進めていく。 ・基本的な生活習慣において、個々の実態に応じた定着を図りながら、レベルアップを段階的に進めていく。また、家庭と連携しながら行うことで、自分でできることを増やしていけるよう支援方法を工夫する。 ・健康で安全・安心な学校生活を送るために必要な環境設定を行い、児童が生き生きと活動できるような授業作りをする。 	2-⑤ 2-⑦ 2-⑧ 3-⑨ 3-⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の運動で校庭を走ったり、体を動かしたりすることができ、持久力や体力の向上に繋がった。運動がんばり表を活用したことで、意欲的に楽しみながら取り組む姿が見られた。体重・偏食に関しては、家庭と連携して取り組めた。時間がかかっても見守り、できたことを称賛し、支援することで、基本的な生活習慣が身に付いた。情緒の安定を図るための背景の把握と、支援体制を整えることが課題である。

	(3)教師や友達とかかわりあいながら、場に 応じたコミュニケーション能力を高めてい くとともに、いろいろな役割を通して、褒 められたり、認められたりする体験から、 自己肯定感を培う。	・友達や教師と気持ちなどを伝え合う体験的活動を工夫し、言葉やサイン、カードなどの代 替手段を活用しながらコミュニケーション能力を育て、楽しさを体感できるようにする。 ・係や役割、守るべきルールなどについて、達成できたことには大いに称賛し、「できた・ またやってみよう」など意欲や自信につなげられるよう、評価を積み重ねていく。 ・児童の気持ちに寄り添いながら、チャレンジしようとする心を育てられるよう、教師が チャレンジする姿を見せたり、気持ちを高められるような言葉掛けをしたりしながら取り組 んでいく。	1-① 1-③ 2-⑤ 2-⑥ 2-⑦ 3-⑪ 4-⑬	A	・役割があることで、責任感が増し、「でき た」という経験を積み重ねていくことができ た。協働する場を設け、教師だけでなく友達と 協力して取り組むことを積み重ねることで、子 ども同士でコミュニケーションをとりながら活 動できるようになった。また、実態に応じた支 援をすることで、伝えようとする機会が増え た。
小学部 第6学年	(1)一人一人の発達段階に応じた学習活動を通し、自ら取り組み、考え、学ぼうとする 態度を育てる。	・友達や教師と気持ちなどを伝え合う体験的活動を工夫し、言葉やサイン、カードなどの代 替手段を活用しながらコミュニケーション能力を育て、楽しさを体感できるようにする。 ・係や役割、守るべきルールなどについて、達成できたことには大いに称賛し、「できた・ またやってみよう」など意欲や自信につなげられるよう、評価を積み重ねていく。 ・児童の気持ちに寄り添いながら、チャレンジしようとする心を育てられるよう、教師が チャレンジする姿を見せたり、気持ちを高められるような言葉掛けをしたりしながら取り組 んでいく。	1-① 1-③ 2-⑤ 2-⑥ 2-⑦ 3-⑪ 4-⑬	B	・気持ちを伝え合う場面を各教師が心掛け、伝 え方や受け入れ方を機会ある度に話し合えた。 一緒に取り組むことで子どものやる気を引き出 せた。個に合った教材や目標を設定し、繰り返 し学習を積み重ねたことで、自信や学習内容の 定着につながった。個に合わせた課題を準備 し、一人一人に指導する時間の確保していくこ とが課題である。
	(2)体を動かす楽しさを味わいながら、健康 で丈夫な体づくりに努める。	・継続して支援することを通して、衛生的生活習慣や基本的な生活習慣を身に付けられるよ うにする。 ・体育(朝の運動)や自立活動において十分な運動量を確保することで、健康で丈夫な体づ くりに取り組むことができるようにする。	2-⑧ 3-⑨	B	B ・朝の運動や自立活動、体育で運動する時間を 確保できた。各クラスで子どもたちがやりたい 運動(ランニング、ダンス、階段昇降等)に楽 しく取り組むことができた。外から戻ったら手 洗いをすることが定着した。 ・少しずつ変更を加えながら、体力を向上でき る運動を検討することが課題である。また、学 年で週に1回テーマを決めて運動を通しての ルールを強化できるとよい。
	(3)人と関わり合う楽しさを感じたり、自分 の役割を意識して取り組んだりすることを通 して、自分から行動する意欲を育てる。	・学校生活の中で、ルールを守ったり、係活動やお助け隊(委員会活動)などを通して自分 の役割を果たしたりすることで、充実感や役割意識を育てる。 ・学校生活の中で、自分の思いを受け止めたりすることを通して、よりよい人間関係を築く ことができるようにする。	1-① 2-⑤ 2-⑥ 5-⑱	B	・活動報告を必ずすることで自分はみんなのた めに頑張ったとの達成感を味わうことができ、 次への活動意欲につながった。道徳、生活、自 立活動の授業を普段の生活に結び付け、生活年 齢に合わせた段階的な指導を継続していくこと が必要である。お助け隊の活動に加え、日常的 に役割を意識して活動する機会を設定し、支援 方法を工夫していく必要がある。
(1)心身の発達に応じた運動の実施や豊かな 心の育成を図る。	・保健体育と朝の運動、休み時間等を通して健康の維持と運動の習慣化と筋力、持久力の向 上、基礎的な体づくりに取り組むとともに、養護教諭や栄養教諭と連携を図りながら、健康や 衛生・清潔について意識する態度を育てる。 ・感染症対策を徹底するとともに、防災訓練などを通して、セルフケア能力の向上を図る。	1-① 1-④ 2-⑧ 3-⑨ 5-⑱	B	・毎日のトレーニングや保健体育の授業を通し て運動の習慣化と体力の向上につなげることが できた。手指の消毒、教室の換気、手洗い、う がいの徹底をし、感染症対策を撤退することが できた。	
(2)困難さ等を踏まえた実態把握から、個に 応じた学習指導の充実を図り、自己理解を しながら主体的な学びや自己選択・自己決 定する力を育てる。	・個の実態や個別の指導計画をもとに、基本的な生活習慣の定着と向上を図り、自分から取り 組む態度を育てる。 ・生徒の実態・困難さの背景等把握を教師相互の共通理解のもと、個別の教育支援計画と指 導計画を踏まえた学習活動の充実を図る。(個に応じた指導内容・方法、教材の工夫とICT 機器の効果的な活用) ・自己理解しながら、自己選択・自己決定する場面や「できた」「わかった」と自己達成感 がもてる環境の設定、授業の仕組みなどを通し、自主性や自己肯定感をもてるようにする。	1-① 1-② 1-③ 1-④ 2-⑤	B	・直面している困難さの背景を紐解き、生徒に 寄り添いながら支援することができた。保護者 と相談しながら個別の指導計画をもとに適切 な学習支援をすることができた。各教科の授業 において、更に個の実態に応じた指導ができ るようグループ編成等の工夫改善を図る必要 がある。	

中学部	(3)集団生活において、互いに認め合いながら友だちと協力して活動する力や自己有用感を育てると共に、自分らしさを表現しながら、人間関係形成の基礎をつくるができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中（グループ、学級、学年、学部等の集団）での役割を意識し、活動を最後までやり遂げる経験を重ねることで決まりを守ろうとする自律的な態度と集団参加への意欲と自己有用感を育成する。 ・クラス、学年、他学年の生徒同士のかかわりを通して、協力する気持ちや他者を理解する気持ち、思いやる気持ちを育みながら、個に応じたコミュニケーション能力（あいさつや返事、正しい言葉遣い、適切な伝え方等）やかかわり方を育成する。 ・交流及び共同学習の活動に参加しながら、地域の団体や学校、外国の人達への関心を高める。 	①④⑤⑥ ⑦⑪⑬	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使用し、友達への考えや意見をモニターで共有したり、ロールプレイを取り入れ授業を進めたことで、他者理解や友達を思いやる気持ちを育むことができた。学校間交流や地域交流、ワールドキャラバンでは、対面での交流を行い、地域の人たちへの関心を高めることができた。地域と連携した学習場面の拡充を進めることが課題である。
	(4)主体的・自立的に生活する力を育て、社会生活への関心を高めることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・職業・家庭・作業学習、特別活動、総合的な学習の時間において、生徒の主体的な取り組みを引き出せるよう、キャリア発達の視点で学習活動や学習支援の工夫と改善を図る。 ・職業・家庭作業学習、職場体験、施設・事業所見学、高等部校内実習見学、実習体験等を通して、系統的かつ体験的に働くことへの関心をもち、態度の基礎を育てる。 ・アフターコロナに向け、感染症対策を講じつつ、体験的活動や授業内容の工夫改善を進めていく。 	2-④ 2-⑤ 2-⑥ 3-⑨ 4-⑬	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職場見学や体験、ゆめシートを活用した授業実践を通して、キャリア発達の視点での学習支援ができた。また、感染症対策でこれまで実施が困難だった体験的な活動を行うことができたことで、自分の役割を理解して主体的に行動したり、友達と協力して物事に取り組んだりといった場面を設定する事ができ、自己有用感も育むことができた。校内実習体験では、より系統的で効果的な内容や実施時期等の工夫・改善を行う必要がある。
中学部 第1学年	(1)心身ともに健康で、落ち着いた、安全な学校生活を送れるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや要求を表出し、安心して主体的に取り組めるような雰囲気や学習環境を整える。 ・保健体育と朝のトレーニングを通して健康の維持と運動の習慣化に取り組むとともに、家庭や養護教諭、栄養教諭と連携し、健康や清潔を意識できるよう授業を工夫する。 ・防災訓練などを通して、セルフケア能力の向上を図る。 	1-① 2-⑧ 3-⑨	B	<ul style="list-style-type: none"> ・環境設定では、整理整頓を行い生徒の注意が散漫にならないようにし、気持ちの安定を図るための場の設定ができた。保健体育やトレーニングを通して、運動の習慣化もできた。保護者と連携しながら体重の管理を行った。栄養教諭と連携し、健康等についての授業の充実を図るとよい。
	(2)一人一人の実態把握からニーズに基づいた学習活動を行い、主体的に学び、生活に生かせる基礎的な力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握を行い、個別の指導計画、個別の支援計画に基づいた学習内容の充実と基本的な生活習慣の定着を図る。 ・教師相互の共通理解の下、視覚的な教材・教具やICT機器の活用、個々に応じた環境調整、指導形態の工夫を行い、基礎的な力につなげ、自分から取り組む力を育む。 	1-① 1-③ 1-④ 2-⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で情報の共有を行って共通理解を図り、生徒の実態に適した支援・指導の方法を検討、実践できた。各教科においては、習熟度別グループで活動し、実態に適した指導ができた。
	(3)友達への関心を高め、人と豊かにかかわり合う力や社会性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさに気付き、お互いに認め、協力・協働し合いながら、主体的に生活する態度を育む。 ・作業学習や自立活動などのかかわりを通し、思いやる気持ちを育み、挨拶、言葉遣いといった個に応じたコミュニケーション能力を育成する場を多くする。 ・集会活動やワールドキャラバンなど、さまざまな人とかかわり関心を高める。 	2-⑥ 2-⑦ 3-⑪ 4-⑬	C	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳や学年レクリエーションなど、生徒が主体的に活動したり互いにかかわったりすることができた。作業学習や校内実習体験などを通し、挨拶や言葉遣いについて指導できたが、引き続きの指導や支援が必要である。また、学年を超えたかかわりをもてるような環境を設定していくことが課題である。
	(4)自分の役割を理解し、自ら取り組む活動を通して自己肯定感を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生活習慣や身辺処理における実態把握をし、個に応じた支援を行う。 ・当番や係活動、委員会、集会活動など一人一人が活躍できる場を設け、教師や友達に認められることで自信や活動する意欲を高める。 ・感染症対策を講じた上で体験的学習を取り入れ、授業の充実を図る。 	1-① 1-④ 2-⑤ 2-⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適性をみながら、配膳や係活動など活躍できる場を設定することで意欲的に取り組めた。職業家庭における体験的な学習を通し、キャリア教育をすすめることができた。学部集会や行事においては、生徒の活躍の場を広げることが課題である。

<p>中学部 第2学年</p>	<p>(1)心身ともに健康で、落ち着いて安全な学校生活が送れるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや要求を表出できるように、安心して主体的に取り組めるような雰囲気や学習環境を整える。 ・保健体育や朝のトレーニングなどで継続的な運動を行い、運動の習慣をつけ、体力向上を図る。 ・養護教諭や栄養教諭と連携し、健康や身体の成長について分かりやすい授業を行う。 ・感染症対策を行うとともに、防災訓練等を通して、健康維持とセルフケア能力の向上を図る。 	<p>1-① 2-⑧ 3-⑨</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を励ましたり、自ら取り組めるように待つことで、落ち着いて活動することができた。朝のトレーニングの内容を工夫し、運動量を確保できた。個別に対応が必要な生徒については、今後も支援会議や外部専門家、関係機関との連携ができるとよい。衛生面や健康面での支援が必要な生徒が多いので、今後も継続して指導していく。
	<p>(2)一人一人の教育的ニーズに基づいた学習活動を行い、生活に生かせる基礎的な力を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を把握し、個別の指導計画に沿って個に応じた学習をすすめる。 ・合理的配慮に基づいた教材・教具及びICT機器の活用に取り組み、学習意欲を高める。 ・社会生活に即した授業内容になるよう工夫をする。また、学習したことを生活に生かせるようフィードバック場面も大切にしていく。 	<p>1-① 1-② 1-③ 1-④</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器(タブレット端末)を活用することで、生徒が意欲的に学習に取り組めた。教材作成にアプリを活用し、効果的な授業ができた。社会は実態差が大きく難しかったため、グループ分けをしたり、学習内容や学習量の精査をしたりしていく必要がある。
	<p>(3)友達と豊かにかかわり合う力や社会性を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さや友達の良さに気づき、お互いに認め合いながら、協力・協働していけるよう、一人一人のコミュニケーションの力を育てる。 ・作業学習や学部行事を通して学年を超えた生徒同士のよりよい交流ができるよう工夫する。また、学校間交流やALTとの交流を通し、地域の学校や外国の方への関心も高める。 	<p>2-⑥ 2-⑦ 3-⑪ 4-⑬</p>	<p>A</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や行事で協力する場の設定ができ、友達同士のコミュニケーションや関わりが増えた。 ・学校間交流やALT活動を実施し、校外の方と直接交流をすることができ、よい体験になった。今後は、言葉遣いやマナーの習得が課題となる生徒もおり、継続して指導していく。
	<p>(4)自分の役割を理解し、自ら取り組む活動を通して自己肯定感を育てるとともに、働くことに対する関心を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣や身辺処理において家庭と連携を密にし、個に応じた支援を行い定着を図る。 ・当番や係活動、委員会などで一人一人が活躍できる場を設け、教師や友達に認められることで活動する意欲を高める。 ・職業・家庭、作業学習、総合的な学習の時間等の学習を通して、働くことへの意欲・関心を高めるとともに、感染症対策をしながら体験的活動を行い、達成感が味わえるようにする。 	<p>1-① 1-④ 2-⑤ 2-⑥</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・責任感をもって積極的に係活動に取り組み、達成感を得ることができた。称賛することで、自ら取り組むことや自信につながった。校外学習や校内実習体験などの働くことの学習を積み重ねることで、自分の課題に気づくことができた。身辺処理については、学校と家庭とで取り組み方や意識に差があることがあり、より家庭と連携をとれるようにしていく。
<p>中学部 第3</p>	<p>(1)丈夫な身体づくりと心の安定に努め、自分から健康的な生活を送ることのできる力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育や朝の運動などで継続的に運動を行い、健康的な生活を送るための体力の維持増進に努める。 ・自分の気持ちや要求を表出できるように、安心して主体的に取り組めるような雰囲気や学習環境を整える。 ・家庭や養護教諭、栄養教諭と連携しながら、体の成長や性教育、清潔、健康な食生活などについての学習を行う。 ・感染症対策を徹底するとともに、防災訓練などを通して、セルフケア能力の向上を図る。 	<p>1-① 2-⑧ 3-⑨</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のトレーニングでは、実態に応じた内容を工夫することで、メリハリをもって体を動かすことができ、運動量を確保できた。教室環境を整え、落ち着いて活動に取り組めた。養護教諭と連携し、清潔な体について学習を行い、汗の始末など生活と関りをもたせた学習ができた。保健体育と栄養教諭とも連携し、栄養の学習の充実が図れるとよい。
	<p>(2)個々に応じた基礎的な学力の定着を図り、生活の中で生かすことができる力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の発達段階や困難さの背景を把握し、自己選択・自己決定しながら主体的に学習に取り組めるように、職員間で共通理解のもと、指導内容や指導方法、指導形態を工夫する。 ・視覚的な教材など適切な教材・教具を取り入れ、個に応じた学習環境を整えたり、適宜ICT機器を活用したりしながら、基礎的な学力の向上につなげる。 ・社会生活に即した授業内容になるよう工夫をする。 	<p>1-① 1-② 1-③ 1-④</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共通理解を図り、実態に応じてグループを分けて行うことで(国、数、職、家、自活、体育)、活動や方法を工夫した。社会生活に即した授業を踏まえると、単元によってはグループ活動にしたり、編成を変えたりするなど柔軟に対応することが必要であった。一斉授業においても視覚的な教材を用意し、個に応じた対応ができた。また、必要に応じてICT機器や学習アプリを効果的に活用することで、主体的な取り組みにつなげるることができた。

学年	(3)最高学年であることを意識し、自分から仲間とのかかわりを深めることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般を通して生徒同士がかかわり合う場面を設け、協力する気持ちや他者を思いやる気持ちを培い、個に応じたコミュニケーションの力を育てる。 ・クラスや学年での活動、作業学習、学部行事等で最高学年としての役割を意識しながら活動できる環境を整え、自己有用感を感じることができるようになる。 ・学級の係や日直、委員会などの活動を通して、責任感を養いながら自己達成感を味わうことで、何事にも自ら取り組みようとする意欲を高める。 	2-⑤ 2-⑥ 2-⑦ 3-⑪	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行や土陽祭を通して仲間と過ごす楽しさを感じ、協力する力が高まった。また、他者への思いやりや優しさが育まれた。他学年との活動が増えたことで、かかわりの幅が広がった。一人一人が役割をもち、果たすことができるよう配慮することで充足感や意欲につながり、最高学年として役割を務めようとする姿や、係や日直を自ら取り組み、友達同士声を掛け合っている姿が見られた。
	(4)働くことや進路についての理解を深め、卒業後の生活について考えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な生活習慣（挨拶、整理・整頓、清潔、身だしなみ等）の定着を図り、家庭との連携を密にしながら個に応じた進路を考えていく。 ・学校生活全般において自分で役割を選択し、見通しをもって意欲的に取り組めるような支援を行う。また、感染対策を講じ、体験的学習や授業の工夫・改善を進める。 ・職業・家庭、作業学習、総合的な学習の時間等の学習を通して、返事、報告、準備、片付けなどの態度を身に付けられるよう支援する。進路に関する学習（校内実習体験、施設見学等）を行いキャリア発達の視点で卒業後の生活についての関心を高めていく。 	1-① 2-⑤ 2-⑥ 2-⑦	B		<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する授業、施設見学、体験の学習を段階を踏みながら効果的に行えた。「ゆめシート」を継続して振り返ることで、必要な力や進路に関心を向けることができた。授業を行う際には、グループ編成を再考することで、より実態に応じた内容を取り入れた授業につなげていく必要がある。
高等部	(1)自立と社会参加を目指し、家庭生活・社会生活・職業生活に必要な知識・技能・態度を身に付けながら、自主性・自立性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な実態把握に基づいた目標設定を行い、保護者と連携しながら個別の教育支援計画個別の指導計画を充実させるとともに、RPDCAサイクルに基づく授業づくりを行う。 ・健全な生活習慣の定着と生活に活かせる知識・技能の習得に向けて、発達段階や生活年齢に応じた指導・支援の実践を図る。 ・土浦キャリアプランを活用し、職業科や校内実習への取り組みから、集団実習や現場実習へと系統立ててキャリアアップしていくことで、働く技能や態度の育成を図る。 ・授業等におけるICT機器の活用することで、情報や情報手段を主体的に選択したり、情報化社会に対応したりできる力の育成を図る。 	1-③ 1-④ 2-⑤ 5-⑲	B		<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握に基づいた授業づくりという点については、年間指導計画との兼ね合いなどを考えると難しい面もあるため、実態に応じた指導内容の工夫が必要である。実習については、校内実習の内容を見直し、社会参加のために必要な知識や技能を習得することができるようになっていくことが必要である。
	(2)地域社会で明るく・たくましく・自分らしく生活できる、豊かな心と体力づくりを推進できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業等を通して、体力づくりの向上を図る。 ・栄養教諭や養護教諭と連携し、食育や性に関する指導に取組み、発達段階に応じた健康や衛生などの知識と実践力を高める。 ・スマートフォン等の使い方を、生徒指導担当が中心となり外部講師を招くなどして、定期的に学ぶ機会をもつ。 	1-② 1-③ 2-⑧ 3-⑨ 3-⑩	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジマラソン」を実施することができ、体力づくりへの大きな目標をすることができた。スマートフォンの使い方については、必要に応じて、情報化社会に対応するために必要な知識や技能を学ぶ機会を設定することができた。
	(3)人との関係の中で主体的に自分の役割を遂行できるようになるために、見通しをもちながら成功経験を積み重ね、自己有用感を高められるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や道徳教育を中心に、人との関わりの中で場に応じた言動を心掛けながら心の育成を図る。 ・各種スポーツ大会や高等学校文化連盟特別支援学校部門大会、地域貢献活動等のイベントの参加の仕方を工夫し、多様な経験を深めていく。 	2-⑦ 2-⑧	A		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動参加生徒を中心に、各種スポーツ大会に参加し、スポーツを通して連帯感や達成感を感じることができた。高文蓮では、代表者がスタッフとして広報活動をするなど意欲的に活動に参加することができた。
	(4)教職員が専門性を高め、全教職員の共通理解と協働による教育活動を推進するとともに、学校・家庭が連携することで様々な経験積み重ねることができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者等と連携して個別の教育支援計画を充実させながら、進路を視野に含めた学習活動を推進していく。 ・校内支援体制を活用し、個のニーズを的確に把握しながら支援を進めていく。 ・外部専門家との連携を図り、研修を進めることで専門性の向上に努める。 	1-④ 4-⑯ 5-⑲	B		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境の課題などから、市や計画相談支援員など様々な関係機関が連携して、支援していくことが必要なケースがあり、今後の支援体制のあり方を考える良い機会になった。 ・外部専門家との連携においては、授業づくりなど助言をいただける機会を増やすなど工夫していく必要がある。

高等部 第1学年	(1)社会生活に必要な知識や技能を身に付け、社会参加をしていく力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要なマナーやルールについての学習を計画的に行う。 ・学年や学級での自分の役割を認識させ、責任をもって仕事を行えるように支援する。 ・生徒自身が主体的に考え、課題を解決していけるような課題の提示を行い、成功体験を積み重ねることで課題解決能力の育成を図る。 	1-① 1-④ 2-⑤ 2-⑦	A	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活のルールやマナーに関する学習を社会科や職業、道徳などの授業で取り上げた。また、茨城空港への校外学習を計画し、実績的・体験的に学べたことはとても良かった。
	(2)健康な心身の育成と基礎的学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・実態を適切に把握し、個々の生徒の特性と支援方法について教師間の共通理解に努め、グループ編成等を工夫しながら個に応じた指導の充実を図る。 ・身体の成長や健康についての学習を通して、自分自身の身体や健康について意識を高め、心身ともに健康な生活が大切なことへの理解を促していく。 ・障害の実態や特性等に応じて、個に応じた学習環境を整えたり、適宜ICTを活用したりしながら、視覚的な教材など適切な教材・教具を取り入れる。 	1-① 1-③ 1-④ 3-⑦ 4-⑭	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・領域において個に応じた学習グループを編成し、実態に応じた授業を展開することができた。養護教諭とも連携しながら、性に関する学習や健康な生活に関する学習を行った。また、朝のトレーニングやチャレンジマラソンに向けての練習を通し、継続的に体力作りにも取り組めた。より運動時間を確保できるよう、工夫していけると良い。 各授業においてタブレット端末を積極的に活用した。生徒にとって分かりやすい提示の仕方ができただけでなく、生徒自身の活用能力も向上している。
	(3)自分の気持ちや意思を表出し、人と豊かにかかわり合う力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・成功体験を積み重ねることで、自分に自信をもち、自己有用感を高められるようにするとともに、周りの人に自分からかかわりがもてるようにする。 ・日常生活や学習等の具体的な場面において、個々の実態に応じたコミュニケーション方法を用い、場に応じた話し方や人のかかわり方を身に付けられるようにする。 	1-① 1-④ 2-⑤ 2-⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体で積極的な交友関係がみられている。各授業や校内実習を通して、言葉遣いや態度についての意識も向上してきており、場に応じた話し方やふるまい方ができるようになってきている。「自分から」「積極的に」という次の課題に向けてステップアップしていけると良い。
	(4)卒業後の進路に対するイメージをもち、社会自立への意識を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習や校内実習を通して、働くことへの意識を高める。 ・保護者に福祉サービスの情報提供や利用を促すことにより、より良い進路選択ができるように支援する。 	1-④ 2-⑤ 2-⑥ 4-⑭ 4-⑯	B	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習や2回の校内実習を通して、働くことへの意識の向上がみられた。また職業の授業を中心に、自己分析やなりたい自分、そのための課題についても考えることができた。
(1)社会生活に必要な知識や技能を身に付け、主体的に社会参加をしていく力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の(障害の)特性を的確に把握し、教師間の共通理解に努め、個に応じた指導の充実を図る。 ・行事や日々の集団活動において、マナーやルールを意識して行動し、成功体験をを重ねていくことで主体性を高めることができるようにする。 ・障害の実態や特性等に応じて、視覚的な教材など適切な教材・教具を取り入れたり、適宜ICTを活用したりして、学習意欲を育み、主体的に取り組めるように工夫する。 	1-① 1-③ 1-④ 2-⑥ 4-⑯	A	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習で自分たちが作った製品を土陽祭に出品して保護者の方に対面で販売することができた。 ・国語や数学を中心にICTを有効活用した。タブレット端末の簡単な操作に慣れ、原稿作成や発表に活用することで主体的に取り組むことができるようになってきている。今後はキーボードを操作しての入力やエクセル、パワーポイントなどができるように広げていきたい。 	

高等部
第2学年

<p>(2)健康な心身の育成と基礎体力の向上、基本的な生活習慣の定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動する機会や時間を確保し、個に応じた体力づくりを工夫するとともに、保健学習を計画的に実施することで、体調管理やストレスコントロールへの意識を高める。 ・栄養教諭や養護教諭と連携し、食育や性についての指導を行い、正しい知識の定着を図ることで健康的な生活を送れるようにする。 ・生活リズムの安定やスマートフォンの使い方等について学習し、保護者と連携を図って日常生活に生かせるようする。 	<p>3-⑨ 3-⑩</p>	<p>A</p>
<p>(3)他者との適切な距離感を保ちながら、自分の気持ちを相手に伝えたり、他者の考えを尊重したりして人と関わる力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネガティブな捉え方をポジティブな捉え方に変える方法について知り、自分に自信をもって、周りの人と関わるができるようにする。 ・日常生活や学習等の具体的な場面において、個々の実態に応じたコミュニケーションの方法（タブレットアプリやカード、筆談）を用い、場に応じた話し方や人との関わり方を身に付けられるようにする。 ・部活動をきっかけに、スポーツや人とかかわる楽しさを実感し、卒業後の社会参加を推進することができる。 ・男女等の適切な関わりや思いやりのある学級、学年づくりを推進する。 	<p>2-⑦ 2-⑧ 4-⑬</p>	<p>B</p>
<p>(4)卒業後の生活に具体的なイメージをもち、社会自立していく力を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習や実習体験などを通して、自分の得意、不得意などを知り、作業態度の育成や働くことへの意識を高める。 ・自主的に作業に取り組めるよう、手順を提示するなどの実態を考慮した支援を行う。 ・卒業後の進路先のニーズや進路について、個別面談などで保護者と共通理解を図り、現場実習先を決定したり、必要に応じて情報を提供したりして、より良い進路選択ができるように支援する。 	<p>4-⑭ 4-⑯</p>	<p>B</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・朝体育が時間通り開始できるように、荷物の準備や係活動の順番を工夫することで、運動する機会が増えた。学年ごとに実施していたが3学期より縦割りグループで実施することとなった。将来に向けて基本的な生活習慣の定着に向けて引き続き取り組む。 ・タブレットやスマートフォンの利用について面談等で保護者と連携を図り、校内では学期ごとにスマホ・タブレット教室を行い、健康的な生活を送れるように意識の継続に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・職業や道徳、自立活動の授業の中で、具体的な場面の他者との関わり方について経験したことがなかったことについても考えることができた。 ・部活動に参加しようとする生徒や自主自力通学をする生徒が増えた。そのため、学年以外の生徒と関わる機会も増えた。生徒指導部や関係する学年と連携し、適切な関わり方について指導していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・各作業班での活動で、補助具を用いることで不得意感が軽減し、主体的に活動する様子が見られた。進路に関する学習について、不安を感じる生徒も職業や事前・事後学習で前向きに捉えられるようになってきた。引き続き保護者や進路指導部、各関係機関と連携し、本人にとって無理のない進路選択ができるように支援していく。

高等部
第3学年

<p>(1)授業や現場実習等の充実を図り、卒業後の進路を見据え、個に応じて、働く技能や態度の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習や実習体験等を通して、作業態度を育成したり、自分の得意、不得意などを知り、卒業後の進路についての意識を高める。 ・個別面談などで、卒業後の進路先のニーズや進路想定について、保護者と共通理解を図り、現場実習先を決定したり、必要に応じて情報を提供したりして、より良い進路選択ができるように支援する。 ・障害の実態や特性等に応じて、適宜、ICTや視覚的な教材など適切な教材・教具を活用したりして、学習意欲を高める工夫をする。 	<p>1-① 1-③ 2-⑤ 2-⑥</p>	<p>A</p>
<p>(2)保健指導や生徒指導の充実を図り、健康、明朗で思いやりをもって相手とかかわる力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動する機会や時間を確保し、健康の保持、増進に努める。 ・学級活動や特別活動の学習活動を通して、思いやりのある学級、学年づくりを推進する。 ・個に応じて、異性との適切なかわり方やスマートフォンの使い方の指導を定期的実施する。 ・挨拶の励行、清潔・清掃活動を推進する。 	<p>2-⑦ 2-⑧</p>	<p>A</p>
<p>(3)集団活動を通して、自己の役割について理解し、自己有用感を高め、進んで活動する態度の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な称賛を行い、成功体験を積み重ねることで、自己肯定感を高め、周りの人に自分からかわり、進んで活動できるように支援する。 ・生徒の力が発揮できるように、集団活動における生徒の役割等に配慮する。 	<p>2-⑥ 2-⑦ 3-⑪ 5-⑱</p>	<p>B</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に進路情報を提供したり、実習先について個別に相談を受ける場を設定したことで、円滑に現場実習を実施し、進路決定につながった。各教科や総合的な探究の時間において、生徒の実態に応じて、タブレット端末のプレゼンテーションアプリやExcel等を活用し、操作に慣れ、意欲的に学習に取り組むことができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソンを計画的に実施し、実態に応じて運動量を確保した。道徳コーナーを設定し授業の充実を図ったり、学年レクの話し合い活動、計画、実施を行ったりしたことで、学年での望ましい人間関係を築けた。長期休業日の前に、異性との適切なかわり方やスマホの利用について、学ぶ場を設定し、集中して指導を行うことができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・係や学年レクリエーション、生徒会役員選挙での役割等を生徒の実態に配慮し、活動したことで、適材適所での成功体験を通して、自分に自信をもって活動できた。

	(4)進路指導等の研修の充実を図ったり、学年会等で共通理解を図ったりして、職員間で連携協力し、個に応じた指導、支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談の内容等を学年会で共有し、職員間の連携協力を高める。 ・進路に関する学校研修などに進んで参加し、研修に努める。 ・個別の支援計画等を活用し、個々の生徒の実態と支援方法について教師間の共通理解に努め、個に応じた指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1-③ 1-④ 2-⑤ 5-⑦ 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学に参加し、進路情報の収集に努めた。学年会で生徒の進路想定や実習先を確認、協議したり、個別面談の情報を共有したりして、個に応じた進路指導を行った。
訪問教育	(1)保護者や医療、福祉などの関係機関と連携を図り、児童生徒の心身の健康の保持・増進に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康状態や様子などについて保護者との連携を細やかに行い、健康状態を把握するとともに、体調に配慮しながら授業を展開する。保護者との信頼関係づくりに努める。 ・必要に応じて、医療や福祉との連携を図る。 ・感染症対策の徹底に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1-① 1-② 1-④ 3-⑦ 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・医療相談を行い、ポジショニングを考える上で参考になった。教員の不安をなくし授業に取り組める環境を作ることが大切である。 ・授業前後に児童生徒の体調や様子について話すことで、保護者の考えていることや不安を聞くことができた。日常生活でも感染症対策を意識していたので、教員が感染源とならずよかった。
	(2)一人一人の障害の状態に即した学習指導の充実に努め、人やものに対する興味関心や様々な生活経験の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問担当者間の情報交換を密にし、支援内容や支援方法がより充実するように努める。 ・教材・教具を工夫し、視覚、聴覚、触覚、嗅覚などの感覚に働きかける。 ・ICT機器やスクリーングを活用した交流活動や体験的学習を計画したり、複数訪問を行いいろいろな人との関わりをもつ。 ・所属学年の学習内容を基に、生活年齢を考慮しながらスモールステップの指導目標を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> 1-① 1-④ 2-⑤ 2-⑥ 2-⑧ 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後には児童生徒の様子や反応を報告し合い、教材作成時には、相談しながら実態に合わせたものを作成できた。学年行事や授業訪問生同士のオンライン授業、行事や式での管理職のオンライン参加など、たくさんの人とかかわりをもつことができた。複数訪問では、一人で授業をしていると、見逃してしまう表情などを拾うことができた。継続してオンラインや複数訪問を普段の授業の中でも増やしていきたい。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない